

「学生が地域を一つに」

北海道医療大学 地域貢献団体サークル ONE

わしや たつる
代表 鷺谷 建 さん



今、当別町を人の繋がりで溢れる地域にしようと、活動している若者たちがいます。今回は、北海道医療大学地域貢献団体サークル ONE 代表の鷺谷建さんにお話をお聞きしました。

ある高齢者との出会い

元々、私自身が地域の方と関わってみたいという想いがあり、包括支援センターの方から「町内で学生と関わってくれそうな高齢者の方がいるから会ってみたい？」という提案があり、昨年6月にその方の自宅を訪問しました。その方は数年前に配偶者に先立たれてしまい、日常生活の中で話し相手がいなくて誰でもいいから話をしたいと言っていました。学生でも話し相手になれないかと思い、毎週のように訪問を続け、その方と話をしていくうちに、地域の方の想いに触れることがすごく楽しくなっていました。



訪問する学生の輪はどんどん広がり、最終的に20名を超える学生がその方の自宅を訪問。たこ焼きパーティーやガーデニングイベントなど交流を重ねていくうちに、訪問している私達も日々の学校生活の中で感じてた悩みやモヤモヤがほぐされていき、何のために医療や福祉の道を目指しているのかを考えさせてもらえるきっかけをもらいました。地域の方から学ぶことはたくさんあると実感し、この活動を広げようと昨年11月に ONE を立ち上げました。

地域と学生を繋ぐ

ONE の活動目標は、「地域と学生を繋ぐ」ことです。理学療法学科の学生を中心に、現在63名のメンバーがいます。地域の方の自宅への訪問活動を中心に行わせていただき、学生が地域の方からたくさんのことを勉強させてもらっています。今後はリハビリ学生が中心となり、学生と一緒に軽い運動や体操なども地域の方と一緒にやりたいと思っています。現在は新型コロナウイルス感染症の影響で、サークルとしての活動はできていませんが、個人で身体が不自由な方のゴミ捨てなど、町の

ボランティア活動に参加しています。8月に当別神社で行われた当別祭では、多くのサークルのメンバーが消毒や検温などの運営を手伝いました。



地域は学びの場

周りで地域と関わりたいと考えている学生も増えてきており、これからも学生と地域の繋がりを増やしていきたいと思っています。地域にある様々な課題や、地域の方のリアルな声。これらは大学の講義では学ぶことができないものばかりです。私自身、もっと多くの地域の方と関わり、色々と勉強させていただきたいです。北海道医療大学の学生にとっても、当別町に住む地域の方にとっても、より良い地域を作れるように精一杯頑張っていきますので、よろしくお祈りします！